

事業運営報告

1. 事業報告

1. シンフォニー定期演奏会（第208回～第215回）

いずみ定期演奏会（No. 31～No. 34）

ザ・シンフォニーホールを会場として金曜・土曜と2日連続の8公演、いずみホールを会場として4公演の計20公演を開催した。指揮者には2014年4月より首席指揮者に就任した飯森範親、首席客演指揮者に就任したアラン・ブリバエフを中心に海外からの客演指揮者を起用。ソリストには国内外で活躍する実力派演奏家を迎え「芸術性の追求」と「集客」のバランスを考慮し公演を企画した。また、2014年度より復活したいずみ定期でハイドンの交響曲を全曲演奏・録音する「ハイドンマラソン」も2シーズン目となり、アーティスト・イン・レジデンス小山実稚恵をソリストに起用するなど更なる充実を図った。

2. センチュリー豊中名曲シリーズ

いずみホールで開催してきた「四季コンサート」を2017年1月にオープンした豊中市立文化芸術センター大ホールに会場を移し、「豊中名曲シリーズ」として2017年3月にVol.1を開催した。ホールとの共催で次年度からは年4回開催予定。

3. エンジョイ・センチュリーシリーズ

更なる聴衆獲得を目指し、他ジャンルとのコラボレーションを中心とした、従来のクラシックファン以外の方々が楽しめるコンサートを企画した。

「ゴジラ音楽祭 in 京都」 2016年5月2日 ロームシアター京都メインホール
「ドラゴンクエストスペシャルコンサート」

2016年11月3日 ザ・シンフォニーホール

4. 大阪以外での共催公演

広域での観客層の拡大、楽団の認知度、スポンサーの獲得を目的とし、各地の文化財団との共催で、三重（三重県文化会館）、大津（びわ湖ホール）の2会場で公演を開催した。

5. 社会貢献活動

小学生向けの体験型コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」（16公演）、大阪府下の特別支援学校の児童・生徒を対象にした「特別支援学校コンサート」（1公演）、入院患者や来院者のための「病院コンサート」、支援学校へ訪問演奏する「支援学校コンサート（巡回）」（10公演）、服部緑地野外音楽堂での無料コンサート「星空ファミリーコンサート」（2公演）を開催した。

また、～社会とオーケストラの新しい繋がり～を目的としたコミュニティプログラムを昨年度に引き続き開催。野村誠氏（作曲家）をコミュニティプログラムディレクターに迎え、豊中市ローズ文化ホール（7月）と豊中市庄内（2月）にてパフォーマンスを行った。（同時に各6回のワークショップを開催）なお、「平成28年度文化庁戦略的芸術文化創造推進事業」の委託を受け、高齢者向けのプログラムとしてブリティッシュ・カウンスルと共にフォーラム、音楽家のトレーニング、施設での実践を実施した。（12月）

6. センチュリー・ユースオーケストラの指導

公益財団法人関西テレビ青少年育成事業団と連携し、中学1年生から29歳までの青少年を募り、ユースオーケストラを組織して指導・育成を行った。星空ファミリーコンサート、第9回定期演奏会において日頃の活動の成果を披露した。

7. アンサンブル

12月と3月に「センチュリー室内楽シリーズ」を主催公演として開催。JR大阪駅での「センチュリーエキコン」、関西アーバン銀行心斎橋本店での「アーバンイブニングコンサート」、弁護士会館での「ランチタイムコンサート」、御堂筋での大阪クラシックをはじめ、アンサンブルでの公演に多数出演した。また京阪電気鉄道なにわ橋駅・アートエリアB1では楽員が主体となりアンサンブルコンサートを企画・開催した。

8. 依頼公演

びわ湖ホール主催のオペラ公演、文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」をはじめ、多数の依頼公演に出演した。

9. 豊中市立文化芸術センター指定管理事業

2016年4月より豊中市立文化芸術センターの指定管理事業に携わることとなり、10月の柿落とし公演、1月のグランドオープンコンサートにて当団が演奏した。また、ホール主催の当団メンバーによるリサイタルや室内楽コンサートもシリーズ化することとなり、リサイタルは2月に、室内楽は3月に各1回開催した。

10. 豊中市との連携

2012年に豊中市と提携した「音楽あふれるまちの推進に関する協定」に基づき、「豊中まちなかクラシック」として豊中市内各地でコンサートを実施した（アンサンブル10公演、オーケストラ1公演）。

11. 守山市民ホールとの協定

2014年10月に守山市文化体育振興事業団と音楽活動に関する協定を締結。ルシ

オールアートキッズフェスティバル、ルシオール街かどコンサート、ルシオール音楽塾など、守山市民ホールの主催事業に参加。

12. CD の制作

楽団の PR、演奏技術の向上を目的とし（株）オクタヴィア・レコードと協力し CD 制作に参加した。

○ハイドン：交響曲集 Vol.1

飯森範親/日本センチュリー交響楽団

※ レコード芸術 2017 年 1 月号 特選盤に選定

13. オーケストラハウスの管理

大阪府から貸与を受けているセンチュリー・オーケストラハウスの一部を音楽サロンとし、音楽に関連する情報誌や交響楽団の歴史等の書籍を設置し、市民が利用できる公共スペースの場として提供した。

■ カテゴリー別事業損益（単位：千円）

	2015年度			2016年度（決算）			2017年度（予算）		
	収入	支出	損益	収入	支出	損益	収入	支出	損益
シンフォニー定期	73,160	96,320	-23,159	72,723	101,770	-29,047	79,360	91,475	-12,115
いずみ定期	18,573	18,564	9	19,129	18,826	303	18,160	15,271	2,889
その他自主	40,195	59,317	-19,122	41,946	51,714	-9,768	54,622	50,441	4,181
自主公演計	131,929	174,201	-42,272	133,798	172,310	-38,512	152,142	157,187	-5,045
依頼公演	255,085	129,761	125,324	190,534	83,921	106,614	184,696	84,462	100,235
豊中事業（演奏事業・受託事業）	0	0	0	27,338	21,810	5,528	48,741	33,993	14,748
演奏事業合計	387,014	303,962	83,052	351,670	278,041	73,630	385,579	275,641	109,938
共通・管理費用	73,031	454,660	-381,629	58,262	434,717	-376,455	39,793	407,564	-367,772
総合計	460,045	758,622	-298,577	409,933	712,758	-302,825	425,372	683,206	-257,834

II. 楽団運営

1. 事務局体制

企画・制作グループ、営業推進グループ、総務・経理グループの 3 グループ体制で運営。それぞれの役割と権限を明確にした。

豊中市立文化芸術センター指定管理事業については、2 名をホール事業担当として配属。楽団側とホール側とで定期的にミーティングを行い情報共有している。

2. 広報宣伝概要

ターゲット別戦略に基づき、特にBゾーン（一般のクラシックファン）に向けての訴求を強化。シンフォニーホールの情報誌「シンフォニア」での広告掲載の継続、またチケット購入者の半数が演奏会挟み込みチラシを見て買ったという調査結果が出ているためチラシの配布チャネルを拡大。CD店や楽器店など幅広く配布を行う。楽団ホームページを改修しスマートフォンでも見やすく買いやすく変更。FaceBookやTwitterなどSNSメディアからのアクセスに最適化を行う。またチケットぴあのホームページに特集ページを毎月掲載、聴きどころやインタビュー記事を掲載し公演内容をよりわかり易く解説。

3. チケットシステムリニューアル

従来、チケット販売システムと顧客管理データベースが事務所受付とネット受注用と2系統であったために業務が煩雑化。効率改善のためにシステムを一元化。さらに定期会員のネット受付、更新も可能にした。

4. 法人営業強化

体制を強化し、既存会員のフォロー強化と新規スポンサーの開拓を実施。

法人サポーター会員 55社 → 63社に拡大

オフィシャルスポンサー 5社 ⇒ 10社に拡大

オフィシャルスポンサー様各社には従業員様向け特別優待販売を実施。動員強化にも繋げた。

5. 人事情報

- ・アシスタントコンサートマスター決定 西川茉莉奈（2017年1月入団）
- ・事務局人事 退職者2名 大給鮎美（総務経理グループ）
田中聡子（企画制作グループ）
入職者2名 西岡千博（企画制作グループ）
栗山賀容子（企画制作グループ）
出向者1名 田地 寛（オンキヨー株式会社より法人営業担当）